

成果発表・イベント続々と

アートの現場から ACAC通信

現在、国際芸術センター（火）の毎火曜日に、VHSテープでドローイングをスト・イン・レジデンスプログラム „Making Things“の一環で、9月からリモートも含む滞在制作を始めたアーティスト達の活動が次々と始まり、現在開催中のネイタン・ディコン・フルタド「共同展示ラボーACACのフィールドワーク」も11月13日（日）までの開催となりました。

追いかけるようにして、他のアーティストの発表も始まります。11月に展覧会のオープンを迎えるアーティストのうち2名、ヴァネッサ・エンリケスさんと橋本晶子さんの制作の様子をご紹介します。

今年は2020年パンデミック以後ACACにとって、海外在住のアーティストの約3年ぶりに招聘となりました。エンリケスさんはVHSテープを使って空間に描くように作品を展開しているメキシコ出身ドイツ在住のアーティストです。10月18日（火）～12月6日

青森では、公募のアーティスト・イン・レジデンスプログラム „Making

（ドイツ語で「火曜日」）の意）ワーキングショップを開催しています。作品制作ではギャラリーAの大空間に、彼女にとつても初めての形を作り出すことに取り組んでいます。11月12日（土）スタートの展覧会をどうぞお楽しみに。

橋本晶子さんは東京在住のアーティストで、緻密な鉛筆画を中心に構成したインスタレーションを発表しています。描いた風景展示空間の窓からの光と影まで取り込んで、その場で変化する様子ごと作品として見せる自身の仕事を「風景をつくる」と表現します。彼女は鉛筆画の静謐さに対して、ホワイトキューブでは緊張感を加え、小さな部屋を使用する場合は親密さを持たせるなど、その空間に合わせて変えながら展示空間を構成してきました。

一方で、チューブのような円弧形が特徴のACACのギャラリーは、白い壁や高天井を持ちますが完全なホワイトキューブでも生活空間でもありません。会場のギャラリーAは上部に窓があり光が差し込むので、常に表情が異なる空間に對峙しながら日々制作を進めています。どのような風景が立ち現れるでしょうか。

橋本さんの個展「影を誘う」は11月20日（日）から12月11日（日）まで。11月22日（火）、23日（水）、24日（木）、26日（土）、27日（日）にはプライベートツアー「影に触れる」でトツアーネター青森学芸員 村上は、じっくり作品を味わう

時間をご提供します。各日15時／15時半、2回の実施で各回1名定員です。電話でメールでお問い合わせください。

アーティストのアイデアで次々とイベントが増える本プログラム。ACACで毎年開催している公募のAIRのなかでも、近年で一番でイベントが多いプログラムになっています。この記事が印刷される間にも、新しいイベントが追加されているかもしません。ぜひホームページをご確認の上、ピンときたものに参加してみてください。

I.R.のなかでも、近年で一番でイベントが多いプログラムになっています。この記事が印刷される間にも、新しいイベントが追加されているかもしません。ぜひホームページをご確認の上、ピンときたものに参加してみてください。

記事が印刷される間にも、新しいイベントが追加されているかもしません。ぜひホームページをご確認の上、ピンときたものに参加してみてください。



Installation view 「Yesterday's story」 Cité internationale des arts / Paris 2018
撮影 : Watson studio